

生きるって、こんなに楽しいんだ

さらに就職し、その職場で信頼できる上司と出会えたことが佐野さんを変えていきます。始めは仕事

の相談がきっかけでしたが、その上司に自分のことを伝えます。



「LGBT」という言葉も知られていなく、性的マイノリティーについて今よりも理解されていなかった時代に、その上司は私の「女性ではなく男性として生きたい」という悩みを、当たり前のように受け入れ、真剣に向き合い続けてくれました。自分自身を否定し続けてきた中で、職場で初めて素直な気持ちを伝える事ができ、「こんな自分と向き合ってくれる人がいるんだ」「生きるってこんなに楽しいんだ」と、自分の人生の背中を押してくれたように感じました。

一般社団法人 E L L Y の活動を通して

佐野さんは現在、仲間とともにLGBTについての理解を広める活動をしています。

「自分もお世話になった上司のように、人の背中を押せる人になりたい。誰かの為に役に立ちたい。」



と考え、勤めていた会社を辞め活動を始めます。また、「小学校、中学校で性的マイノリティーについてみんなで一緒に考える場所があったら…、両親世代が性的マイノリティーについて考える所があったら…」そんな気持ちから、性的マイノリティー啓発活動、住みやすい環境整備、企業や学校現場での児童生徒・教職員向けの研修などに取り組んでいます。

昨年9月には、仲間とともにLGBT啓発イベント「三重レインボーフェスタ2016」を伊勢市で開催し、300人を超える参加がありました。また、LGBT当事者やその家族が集まる「にじ☆みえカフェ」を開催し、当事者が一人で悩みを抱え込まないような環境を作っています。



「にじ☆みえカフェ」に来られた、あるお母さんの「私には3人の子どもがいるんだけど、今は男の子・女の子・トランスジェンダーの子どもを育てられる母親にしてくれて感謝している」という言葉に感激しました。そのお母さんは、子どもがカミングアウトしてくれた時すぐに、相談にのってくれる窓口を探し、全国の医療関係に電話をしたそうです。

悩みながらも親として「ありのままの子どもの姿」と向き合ってくれる姿勢が性的マイノリティーの子どもたちに「自分は自分でいいんだ」と勇気を与えてくれるんです。

相談されたら「言ってくれてありがとう」を

佐野さんは言います。「LGBT当事者探しをするのではなく、相談されたら『言ってくれてありがとう』と言ってあげてください」と。

法律や制度の制定、当事者の啓発活動などにより性的マイノリティーに関する正しい認識は広まりつつあります。社会全体がLGBTなどの性的マイノリティーについて正しく理解し、気付き、その理解を広げていく。「性の在り方」は多様で人の数だけある。自分が自分らしく生きることができる社会を、みんなで作っていきたいですね。

